

企業は依然として慎重ながらも楽観的

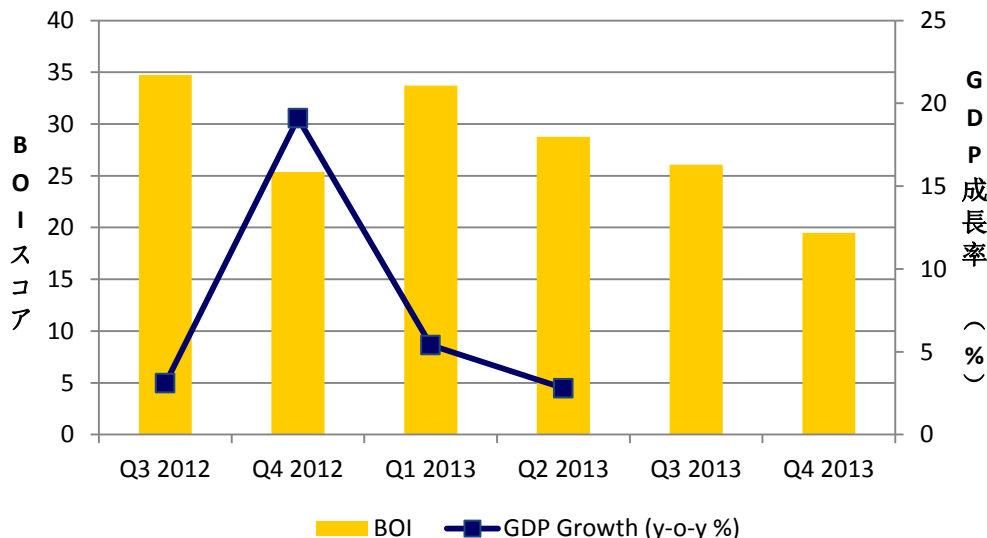
2013年第4四半期の見通し - ハイライト

- 複合的景況感指数は、前四半期比7%低下、前年同期比10%低下
- 6つの景況感指標のうち、在庫を除く5つが四半期よりも低下
- 最も楽観視されているのは純利益と販売価格で、順に+25%、+23%
- 最も企業が楽観視していないのは在庫で-7%

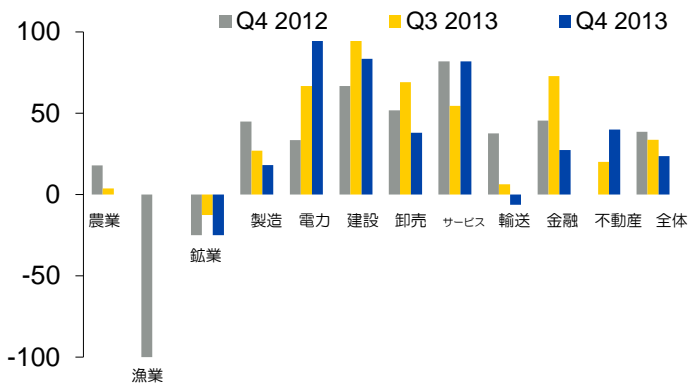
2013年下半期に関しては、民間消費と工業生産高の指標の低下に裏付けられているように、深刻な洪水の大きな悪影響が広く感じられています。驚くことではありませんが、ほとんどの関係者が、2013年の実質経済成長率の見通しを3.5%程度に引き下げました。その代わりに、2013年1月～9月期のCPI（消費者物価指数）上昇率は、2012年の3.0%から2.4%に下がっています。しかしながら、2014年には明るい要因がいくつかあって、タイ経済のGDP成長率は5.2%程度に回復すると予測されます。

2013年1月から8月までの累積貿易収支は5億1000万ドル（「ドル」の表記はすべて米ドル）で若干の赤字を計上しましたが、経常赤字は68億ドルにも達しました。これは主に金への投資と利益・配当金の送金によるものです。幸いにも、官民双方の事業者が海外から巨額の資金（66億ドル）を借り入れたため、国際収支の赤字額はわずか1億7000万ドルにとどまっています。タイ銀行（中央銀行）の外貨準備高は常時1700億ドル（直物）プラス200億ドル（先物）で推移しているので、国際収支赤字のほとんどは容易に補填できると思われます。このことは特に、現行の市場指向型為替レート政策の採用が続いていることから言えます。来年の見通しについては、IMFはグローバル貿易取引に関して見通しが改善すると予測しています。たとえタイ政府が経常赤字を出しかねないメガプロジェクトに乗り出したとしても、パーツの価値がある程度まで上昇していく限り、相当額の資金流入があるでしょう。

2013年第2四半期、タイの経済成長は2013年第1四半期の5.4%から2.8%に落ち込みました。この減速は、主に家計消費の明らかな低迷（2013年第1四半期の伸び率4.4%に対して2.4%）と商品・サービス輸出の著しい縮小（前四半期の伸び率9.0%に対して3.9%）によるものでした。家計部門が抱える多額の借入と、消費者マインドの冷え込みが、支出を慎重にさせました。また、輸出はグローバル需要、特に中国からの需要の不振に悩まされ、農業輸出と製造業輸出の双方が減少する結果になりました。国家経済社会開発庁（NESDB）が公式に発表した前述の2013年第2四半期のタイ経済活動の減速は、景況感指数（BOI）の調査結果と一致しています。



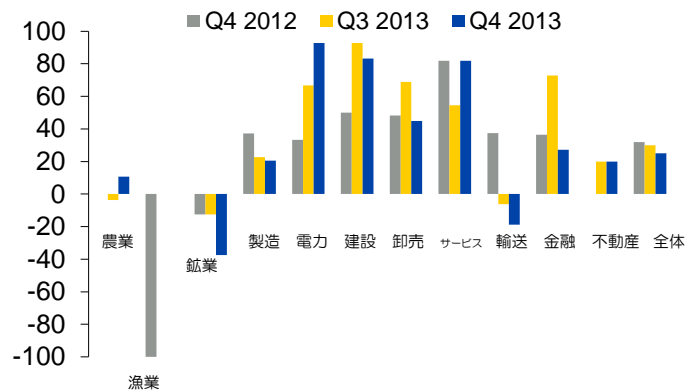
売上高



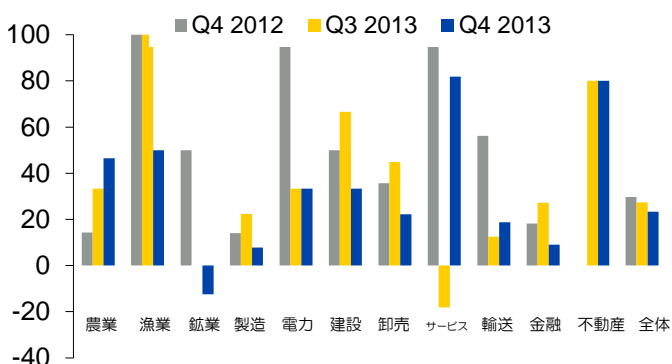
調査対象企業のうち、楽観的見通しから悲観的見通しを差し引いたネットの数値で+23%が、第4四半期に販売高が伸びると予測しており（悲観的27%に対し楽観的50%）、輸送及び鉱業セクター（それぞれ-6%、-25%）を除くほぼ全セクターがそのような見通しを持っています。最も楽観的なセクターは、公共事業（+100%）、建設（+83%）、サービス（+82%）セクターです。2013年第3四半期のデータとの比較では、金融セクターの指数が+73%から、第4四半期には+24%に落ち込んでいます。これは、銀行が信用リスクをより強く意識するようになり、融資の承認プロセスが厳格化しているためです。建設会社は不動産バブルを予想していることから、建設セクターもこれに同調しています（2013年第3四半期から17%減）。

純利益

第4四半期は、公共事業（ネット+100%）及び建設（ネット+83%）セクターに牽引された指数+25%が示すとおり、全体として純利益は増加する見通しです。しかしながら、鉱業（ネット-38%）、輸送（ネット-19%）をはじめ、指数が低下したセクターもあります。建設及び公益セクターの純利益の増加は、政府の水資源管理及びメガインフラプロジェクトへの投資によるものです。一方、鉱業セクターの落ち込みは、国内需要の減少によるものです。

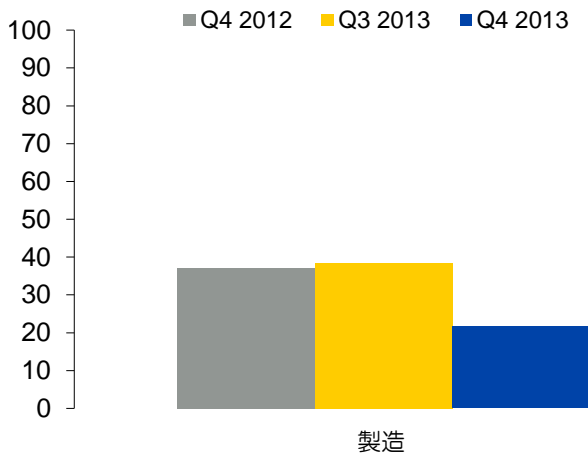


販売価格



楽観的見通しを持つ企業が41%（加重計算）に対して、悲観的見通しを持つ企業は17%でした。最も楽観的なセクターは、サービス（ネット+82%）で、不動産（ネット+80%）がそれに続きます。これは、新卒者初任給引き上げ政策の一環としての従業員の賃金・給与上昇を受けています。また、不動産価格、特にBTSスカイトレイン及びMRT地下鉄網の沿線に位置する分譲マンションの価格上昇も、建設資材の価格上昇と共に、不動産セクターの指数の上昇要因となりました。

新規受注

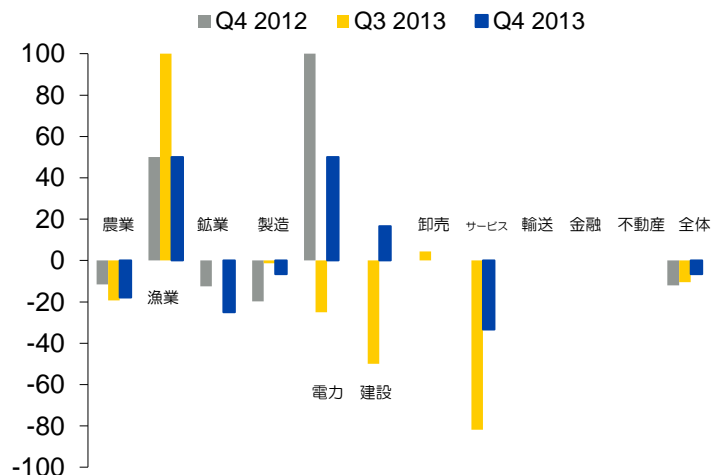


タイの製造企業は、新規受注（ネット+22%）の増加を見込んでいます。状況は変わらないと予測する企業が24%であるのに対し、残りの企業は49%が楽観的見通しを、27%が悲観的見通しを持っており、見解が分かれています。2013年のGDP成長率は期待を下回ると予測するアナリストは多いものの、国内外の市場から新規注文は依然として入ってきており、一部の製造企業はすでに来年分の注文も受けています。加えて、特に日用品（FMCG）セクターでは、企業が年末年始の休暇中に新製品の早期投入による市場シェアを確保しようと躍起になっており、新製品の発売が増えています。

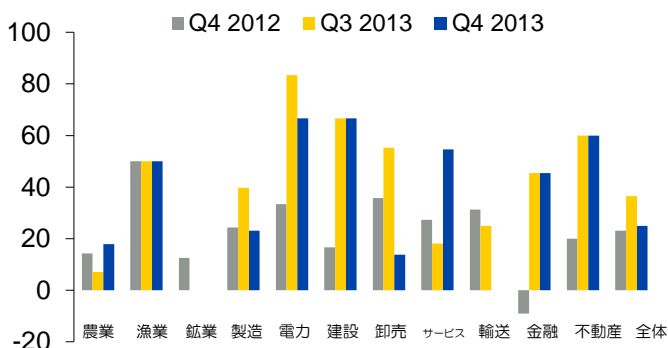
注：新規受注の調査対象は製造企業のみです。

在庫

2013年第4四半期の在庫の見通しについては、全体のデータとしては減少（ネット-7%）を示しているものの、見解は分かれています。在庫が減少すると予測しているセクターは、卸売・小売（-33%）、鉱業（-25%）、農業（-18%）です。一方、漁業及び公共事業セクターは、在庫の大幅増加を見込んでいます。これは国内外からの海産物需要があるためですが、グローバル市場における価格変動の問題を見過すべきではありません。公共事業セクターの楽観的見通しは、発電プロジェクトや、航空会社が需要増に対応するために航空機購入を急いでいることに見られる貨物の空輸など、投資によるメリットが見込まれるプロジェクトへの大規模な投資注入に起因しています。



従業員



どのセクターも雇用は増えるとの見通しを持っており（ネット+25%）、楽観視している企業が39%に対し、悲観視している企業は14%となっています。雇用水準の上昇を牽引しているセクターは、公共事業及び製造（いずれも+67%）で、サービス（+55%）がそれに続きます。サービスセクターでの雇用拡大の理由は、旅行業（前年同期比+28%）の拡大によるものです。さらに、公共事業及び製造セクターの雇用拡大は、製品需要の増加と政府のインフラプロジェクトへの投資に関連したものです。



景況感指数 (BOI) レポート

D&B 景況感指数レポートは、ビジネス界が景気に対して抱く印象を測定したもので、投資家にとって信頼できるベンチマークになる商品として評価されています。D&B 景況感指数は、四半期毎の景況感調査に基づいて出されます。長年のうちに、この四半期毎の調査は、対象各国の経済活動のターニングポイントを示す有数の指標になってきました。

調査方法

本調査の実施において、サンプルは農業、鉱業、建設、製造、輸送、卸売、金融、サービス、公益などの業種の企業により構成された D&B データベースから無作為に抽出しています。

本調査回答者全員に、所属企業が売上高、純利益、販売価格、新規受注、在庫、従業員数という重要指標に関して、次の四半期は前年同期比で増加するか、減少するか、変わらないか見通しを示していただくという 6 つの標準的質問にご回答いただきました。各要素の指数については、増加すると予測した回答者のパーセンテージから、減少すると予測した回答者のパーセンテージを差し引いて計算しました。特に断りがない限り、各指数の増減は前四半期からの増減を指しています。

詳細については、当社ウェブサイト (www.dnb.com.id) をご覧いただくか、当社カスタマー・サービスセンターへお電話 (+62 21 57900979) またはメール (csr@dnb.co.id) でお問い合わせ下さい。



Decide with Confidence

ダン・アンド・ブラッドストリート® (D&B) について

ダン・アンド・ブラッドストリート (NYSE:DNB) は、商業情報およびビジネスインサイトを提供する世界有数の情報提供企業であり、172 年にわたって企業の「Decide with Confidence® (確信のある意思決定)」を支援してきました。D&B のグローバル商業データベースには、2 億 2500 万件以上のビジネスデータが記録されており、お客さまに質の高いビジネス情報を提供する D&B 独自の DUNSRight®品質保証プロセスが、このデータベースを強化しています。この質の高い情報は、お客さまが重要なビジネス決定を行う上で信頼を寄せている当社のグローバルソリューションの基礎となっています。

詳細については、当社ウェブサイト (www.dnb.com) をご覧下さい。